



平戸から松浦へは松浦鉄道でも!

松浦市鷹島沖は、元寇(蒙古襲来)終焉の海。鷹島沖では元寇

船をはじめ、数々の遺物が引き揚げられており、眠っていた歴史に光を当てている。その一つが元軍の最新兵器であった「てつほう(鉄砲)」だ。

松浦では、なんとこの「てつほう」をモチーフにしたお菓子が誕生している。岩元製菓舗の三代目・岩元啓晃さんが作るの一口サイズの「てつほう最中」。炸裂弾にしてはコロコロと可愛い印象だが、これがひと味違う最中なのだ。

まずは別添えの小袋に入っている、チョコレート味の「パチパチふりかけ」を口の中へ。しばらく舌の上で転がしていると、チョコレートの風味が消え、パチパチと弾けるような感覚が生まれた。そのタイミングで最中を一口。すると、

スイーツと魚のまち

松浦市

てつほう最中



ふわっと上品な甘さが口いっぱい広がった。

最中の中には芋と栗、小豆が入っているが、これはてつほうの内部で見つかった鑄鉄片と陶器片を表現しているという。岩元さんは開発した当時からこう振り返る。「芋、栗、小豆を入れることは早々に決まったのですが、どうしても味がほやけてしまい、試行錯誤しました。そこで、てつほうが海底遺跡であることに思い至り、白あん塩を入れました。こんな味が味の決め手になりました。こんな話題になるなんて、予想外ですね」。岩元さんは高校卒業後、京都の老舗

和菓子店で修業を積み、父の後を継いだ。

「父はカステラや洋菓子を作っていました。京都では特にあんこについて深く学びました。安全な材料で、できるだけ手作りする、これが私のモットーです」。二代目を作るカステラは、第十九回全国菓子大博覧会で金賞を受賞している。岩元さんはこのカステラの味を受け継ぐ一方で、数々の新商品を生み出してきた。てつほう最中は、その代表格だ。伝統と革新を大切にしながら菓子づくりに邁進する三代目の穏やかな笑顔が印象的だった。てつほう最中は、歴史をモチーフにし

た稀有なるスイーツ。ぜひここでしか味わえないパチパチ食感と極上のあんこのコラボレーションを楽しんでほしい。



歴史に
思いを馳せる
甘いひととき

